

令和6年度 第2回 いちき串木野市洋上風力発電調査研究協議会 議事要旨

日 時：令和6年11月25日（月）15：00～17：00

場 所：串木野市漁協2階ホール

■参加者

●委員

串木野市漁業協同組合 代表理事組合長	早崎 達哉
鹿児島県漁業協同組合 串木野市島平支所 支所運営委員長	迫田 洋則
市来町漁業協同組合 代表理事組合長	大久保 光朗
いちき串木野市まちづくり連絡協議会 本浦地区まちづくり協議会長	大西 隆志
いちき串木野市まちづくり連絡協議会 支え合う川南みんなの会長	米園 仁志
いちき串木野市地域女性団体連絡協議会 会計	小原 文子
いちき串木野市地域女性団体連絡協議会 監事	宇都 トミ子
いちき串木野商工会議所 会頭	勘場 裕司
いちき串木野薩摩沖 次世代エネルギー推進協議会	福留 進
甕島商船(株) 取締役海務部長	石原 義三
南薩砂利(株) 代表取締役	北山 和博
鹿児島県エネルギー政策課 主幹	兼田 英雄
いちき串木野市 副市長	出水 喜三彦
いちき串木野市 企画政策課長	山崎 達治
いちき串木野市 シェアーズ課長	長崎 崇
いちき串木野市 水産商工課長	福山 昌浩
いちき串木野市 産業立地課長	大平 博喜
いちき串木野市 都市建設課長	吉見 和幸
いちき串木野市 市民生活課長	西久保 敏彦

●オブザーバー

日置市総務企画部企画課	園田 賢一
-------------	-------

●事務局

いちき串木野市 産業立地課 エネルギー・企業立地係 係長	十島 航
いちき串木野市 産業立地課 エネルギー・企業立地係 主事補	齋藤 瑠汰

●委託事業者

株式会社建設技術研究所 大阪本社資源循環・エネルギー部 グループ長	齋藤 大樹
株式会社建設技術研究所 大阪本社資源循環・エネルギー部 技師	松田 知夏

●講師

山形県 環境エネルギー部 エネルギー政策推進課 課長	楨 裕一
(随行) 山形県 環境エネルギー部 エネルギー政策推進課 洋上風力発電事業主査	菅野 和也

■欠席者

●委員

羽島漁業協同組合代表理事組合長	平石 良博
いちき商工会 会長	松下 明弘
NPO 法人鹿児島いちき串木野観光物産センター 理事長	久木山 睦男

●オブザーバー

経済産業省 九州経済産業局 資源エネルギー環境部 電力・ガス事業課 課長	中島 功
江口漁業協同組合	久木留 秀行

1. 開 会
2. 挨拶
3. 協議事項

「令和6年度の調査報告（中間）について」

- 委員 P14、アンケートで要望の多かった魚種とあるが、具体的な魚種を教えてください。
- 事務局 イセエビ、マアジ、チダイ、アオリイカなどが人工漁礁の設置によって漁獲向上を期待する魚種として挙げられた。
- 委員 P15、いちき串木野市ではツキヒガイが有名であるが、ヒオウギ貝の養殖と記載されている。ツキヒガイではないのか。
- 委員 ヒオウギ貝とはツキヒガイと別の種類であり、現在鹿児島県漁協島平支所においてヒオウギ貝の試験養殖を行っている。試験養殖のため出荷できないが、試験養殖の結果次第で区画漁業権を申請し養殖漁業化したいと考えている。
- 委員 ヒオウギ貝を養殖していることは知らなかった。了解した。
- 委員 P17、RE100 ブランド水産加工品とあるが、具体的な先進事例はあるのか。
- 事務局 水産加工において商業化された事例はまだ確認されていないが、工場RE100を目指す動きなどは全国で活発化してきている。
- 委員 P9、A以外の漁業振興策も行う意味はあるのか。人材や予算が分散してしまうため、Aに注力した方がよいのではないのか。
- 事務局 P19にも記載している通り漁業振興策検討会での「漁業の利益になるものは漁業振興策として残して欲しい」というご意見を踏まえて、現段階の漁業振興策として優先順位をつけながら広範に整理した。
- 委員 現段階ではアンケート結果を踏まえて優先順位をつけている段階であるのご理解いただきたい。
- 委員 山形県として気になった点があればご意見いただきたい。
- 講師 これほど熱心に議論がなされているのであれば、いつ有望区域になってもおかしくないという印象を持った。促進区域指定に向けては、今後論点を整理しまとめていく必要がある。委員からご意見があった通り漁業振興を議論していく中で効果が分散されることがないように具体的な振興策を検討していく必要があるが、その視点をもって引き続き協議を続けていただきたいと思います。

4. 講 話

「山形県遊佐町沖における洋上風力発電事業の導入に向けた取組みについて」

(山形県環境エネルギー部エネルギー政策推進課 課長 楨裕一氏)

- 委員 P10、組織体制を令和5年4月1日に大幅に改編したとあるが以前はどのように進めていたのか。
- 講師 令和5年4月1日以前から他部局との連携はあったものの、我々エネルギー一部局が主体となっていた。その後の議論により、次第に事業規模の大きさや重要性が認識され、より役割と認識をはっきりさせるために組織改編を行った。
- 委員 P11、県知事評価基準を独自に検討されたとあるが、県知事評価基準は事前に公表されるのか。
- 講師 公募占用指針と合わせて県知事評価基準も公表される。

委員 P8、離岸距離が1海里となった経緯を教えてください。
講師 景観保護、安全確保など様々なご意見があったところだが、漁業操業への配慮による部分が多い。

委員 選定事業者に求めていく事項を環境影響評価の実施と実施結果の説明としている。いちき串木野市では、事業者が選定されないとしたような影響があるか分からないのであれば洋上風力発電を進めるべきではないという意見がある。山形県でどのように対応したか教えてください。

講師 丁寧に繰り返し住民説明を行った。影響については知見も少なく、国、環境省を招いて説明してもらった。住民の不安については、意見とりまとめ留意事項で事業者に対しその対応を求めていくことを繰り返し説明している。

委員 選定される事業者の元でしっかりと環境影響評価を行っていくのだと説明し理解してもらおうということでしょうか。

講師 認識の通りである。

5. その他

事務局 2025年2月頃に第3回協議会を予定している。また、漁業振興策に関する検討会や産業振興に関するヒアリング等も引き続き実施するため、ご協力いただきたい。

6. 閉 会

以上